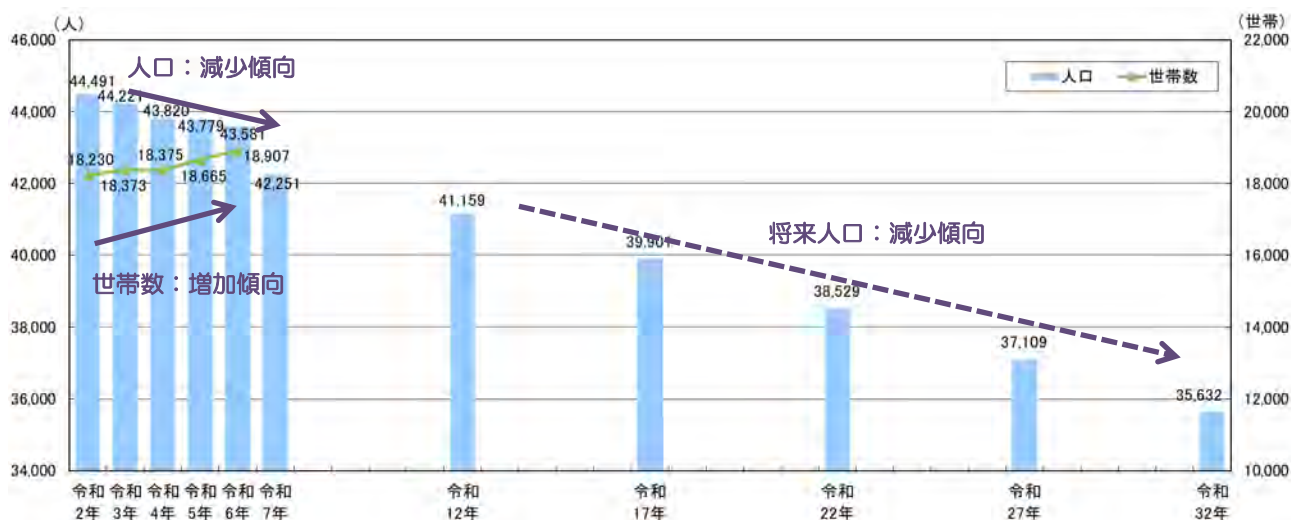


2. 地域の概況

2-1 人口動向

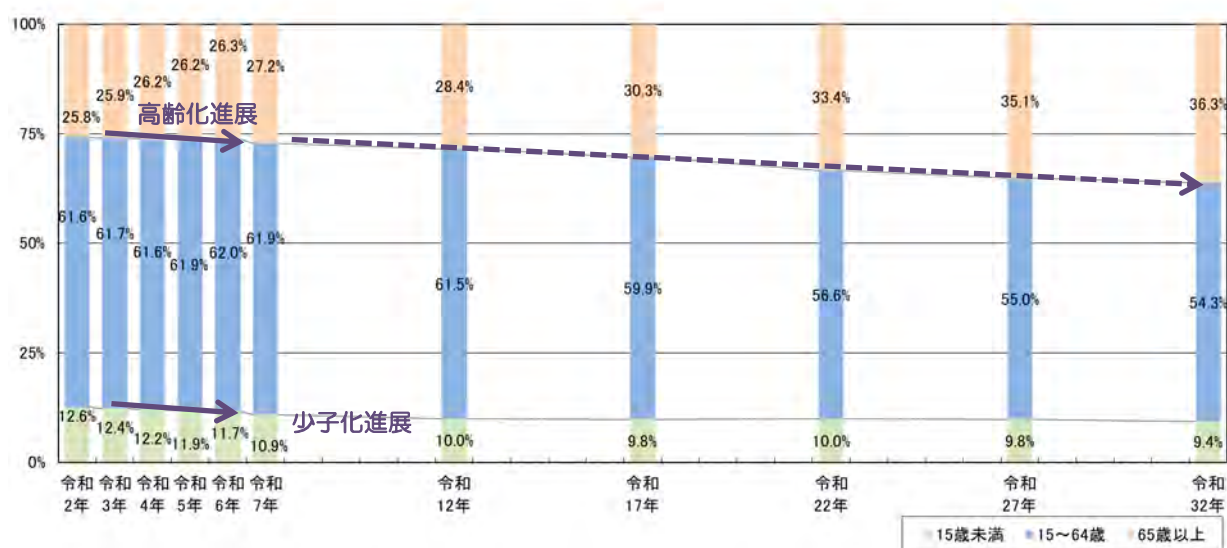
2-1-1 市全体の人口、世帯数、年齢別人口割合

- 人口は令和2年以降減少傾向となっています。
- 世帯数は経年的に増加しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来の推計人口は減少傾向となっており、令和32年には35,632人と、現在の本市の人口からみると約8,000人減少すると予想されています。
- 年齢別人口割合は、徐々に少子高齢化が進んでおり、将来においても高齢者割合は増加していくと予想されています。



※資料：令和6年まで住民基本台帳（各年4月1日、令和6年のみ3月29日）
 将来（令和7年以降）：国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

図：人口・世帯数の推移



※資料：令和6年まで住民基本台帳（各年4月1日、令和6年のみ3月29日）
 将来（令和7年以降）：国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

図：年齢別人口割合の推移

2-1-2 小学校区別の人口、年齢別人口割合

- 全年齢の小学校区別の人口は弥生小学校区が最も多く、日の出小学校区や桜小学校区など北部地域を中心に多くなっています。
- 南部地域や東部地域の人口は減少傾向ですが、栄南小学校区では横ばいの状態となっています。
- 14歳以下の人口も弥生小学校区が最も多く、北部地域を中心に多くなっていますが、人口、割合ともに全体的に減少傾向となっています。
- 65歳以上の高齢者人口も弥生小学校区が最も多く、北部地域を中心に多くなっており、人口はやや減少している学区もありますが、割合は増加傾向となっています。
- きんちゃんバスを無料で利用できる75歳以上人口も同様の傾向となっており、人口、割合ともに増加傾向となっています。

表：小学校区別人口の推移

全年齢		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	5,693	5,624	5,589	5,572	5,523	-170
	弥生	11,315	11,261	11,177	11,223	11,143	-172
	桜	7,862	7,805	7,717	7,755	7,745	-117
	日の出	8,574	8,561	8,576	8,534	8,479	-95
南部	大藤	3,041	3,013	2,938	2,903	2,915	-126
	栄南	2,750	2,733	2,681	2,730	2,731	-19
東部	十四山東部	3,089	3,045	3,001	2,935	2,940	-149
	十四山西部	2,167	2,179	2,141	2,127	2,105	-62
市全体		44,491	44,221	43,820	43,779	43,581	-910
14歳以下		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	661	632	626	617	611	-50
	弥生	1,392	1,341	1,329	1,291	1,301	-91
	桜	1,080	1,065	1,026	1,006	968	-112
	日の出	1,340	1,332	1,315	1,291	1,250	-90
南部	大藤	341	332	300	282	288	-53
	栄南	234	219	201	217	205	-29
東部	十四山東部	316	318	303	281	269	-47
	十四山西部	244	232	226	220	209	-35
市全体		5,608	5,471	5,326	5,205	5,101	-507
65歳以上		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	1,751	1,741	1,742	1,719	1,704	-47
	弥生	2,880	2,879	2,853	2,841	2,846	-34
	桜	1,811	1,799	1,796	1,796	1,809	-2
	日の出	1,530	1,524	1,561	1,577	1,584	+54
南部	大藤	982	989	996	1,000	992	+10
	栄南	889	879	872	878	870	-19
東部	十四山東部	987	1,002	996	987	991	+4
	十四山西部	660	661	672	656	677	+17
市全体		11,490	11,474	11,488	11,454	11,473	-17
75歳以上		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	961	974	993	1,008	1,055	+94
	弥生	1,537	1,551	1,579	1,643	1,694	+157
	桜	946	942	943	1,004	1,026	+80
	日の出	717	724	768	812	866	+149
南部	大藤	473	478	508	531	562	+89
	栄南	480	475	482	505	503	+23
東部	十四山東部	505	506	530	540	571	+66
	十四山西部	339	345	360	367	381	+42
市全体		5,958	5,995	6,163	6,410	6,658	+700

※資料：住民基本台帳（各年3月31日、令和6年のみ3月29日）

表：小学校区別年齢別人口割合の推移

14歳以下		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	11.6%	11.2%	11.2%	11.1%	11.1%	-0.5%
	弥生	12.3%	11.9%	11.9%	11.5%	11.7%	-0.6%
	桜	13.7%	13.6%	13.3%	13.0%	12.5%	-1.2%
	日の出	15.6%	15.6%	15.3%	15.1%	14.7%	-0.9%
南部	大藤	11.2%	11.0%	10.2%	9.7%	9.9%	-1.3%
	栄南	8.5%	8.0%	7.5%	7.9%	7.5%	-1.0%
東部	十四山東部	10.2%	10.4%	10.1%	9.6%	9.1%	-1.1%
	十四山西部	11.3%	10.6%	10.6%	10.3%	9.9%	-1.3%
市全体		12.6%	12.4%	12.2%	11.9%	11.7%	-0.9%
65歳以上		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	30.8%	31.0%	31.2%	30.9%	30.9%	+0.1%
	弥生	25.5%	25.6%	25.5%	25.3%	25.5%	+0.1%
	桜	23.0%	23.0%	23.3%	23.2%	23.4%	+0.3%
	日の出	17.8%	17.8%	18.2%	18.5%	18.7%	+0.8%
南部	大藤	32.3%	32.8%	33.9%	34.4%	34.0%	+1.7%
	栄南	32.3%	32.2%	32.5%	32.2%	31.9%	-0.5%
東部	十四山東部	32.0%	32.9%	33.2%	33.6%	33.7%	+1.8%
	十四山西部	30.5%	30.3%	31.4%	30.8%	32.2%	+1.7%
市全体		25.8%	25.9%	26.2%	26.2%	26.3%	+0.5%
75歳以上		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	R2⇒R6の増減
北部	白鳥	16.9%	17.3%	17.8%	18.1%	19.1%	+2.2%
	弥生	13.6%	13.8%	14.1%	14.6%	15.2%	+1.6%
	桜	12.0%	12.1%	12.2%	12.9%	13.2%	+1.2%
	日の出	8.4%	8.5%	9.0%	9.5%	10.2%	+1.9%
南部	大藤	15.6%	15.9%	17.3%	18.3%	19.3%	+3.7%
	栄南	17.5%	17.4%	18.0%	18.5%	18.4%	+1.0%
東部	十四山東部	16.3%	16.6%	17.7%	18.4%	19.4%	+3.1%
	十四山西部	15.6%	15.8%	16.8%	17.3%	18.1%	+2.5%
市全体		13.4%	13.6%	14.1%	14.6%	15.3%	+1.9%

※資料：住民基本台帳（各年3月31日、令和6年のみ3月29日）



図：小学校位置図

2-1-3 通勤・通学による人口流動

- ・ 通勤・通学による人口流動は、流出、流入ともに名古屋市が最も多く、次いで愛西市や蟹江町、津島市などが多くなっています。
- ・ 平成27年と令和2年とを比較すると、流出は弥富市内で通勤・通学する人口が2,231人増加し、増減している市町村は半数ずつですが、流入は増加傾向となっています。

表：通勤・通学（15歳以上）による人口流動

順位	平成27年	流出		流入		計		順位変動	令和2年	弥富市から流出		弥富市へ流入		計		H27⇒R2 増減(人)
		人口(人)	割合	人口(人)	割合	人口(人)	割合			人口(人)	割合	人口(人)	割合	人口(人)	割合	
	弥富市内	9,577	39.2%	—	—	9,577	25.7%		弥富市内	11,808	44.7%	—	—	11,808	30.3%	+2,231
1	名古屋市	5,986	24.5%	3,733	28.9%	9,719	26.0%	1 →	名古屋市	5,745	21.8%	3,892	29.4%	9,637	24.8%	-82
2	愛西市	1,045	4.3%	1,694	13.1%	2,739	7.3%	2 →	愛西市	1,109	4.2%	1,716	13.0%	2,825	7.3%	+86
3	津島市	925	3.8%	1,058	8.2%	1,983	5.3%	3 ↑	蟹江町	701	2.7%	1,229	9.3%	1,930	5.0%	+114
4	桑名市	847	3.5%	996	7.7%	1,843	4.9%	4 ↓	津島市	871	3.3%	1,051	7.9%	1,922	4.9%	-61
5	蟹江町	665	2.7%	1,151	8.9%	1,816	4.9%	5 ↓	桑名市	823	3.1%	1,043	7.9%	1,866	4.8%	+23
6	飛島村	1,110	4.5%	285	2.2%	1,395	3.7%	6 →	飛島村	1,017	3.9%	328	2.5%	1,345	3.5%	-50
7	木曾岬町	402	1.6%	441	3.4%	843	2.3%	7 ↑	あま市	265	1.0%	568	4.3%	833	2.1%	-6
8	あま市	299	1.2%	540	4.2%	839	2.2%	7 ↓	木曾岬町	425	1.6%	408	3.1%	833	2.1%	-10
9	四日市市	375	1.5%	262	2.0%	637	1.7%	9 →	四日市市	473	1.8%	265	2.0%	738	1.9%	+101
10	稲沢市	240	1.0%	386	3.0%	626	1.7%	10 →	稲沢市	250	.9%	386	2.9%	636	1.6%	+10
	その他	2,942	12.1%	2,362	18.3%	5,304	14.2%		その他	2,175	8.2%	2,362	17.8%	4,537	11.7%	-767
	弥富市全体	24,413	100.0%	12,908	100.0%	37,321	100.0%		弥富市全体	26,390	100.0%	13,248	100.0%	38,910	100.0%	+1,589

※資料：各年国勢調査

2-2 主要施設の立地状況

2-2-1 医療施設

- 市内には入院治療が可能な第二次医療施設として、海南病院と偕行会リハビリテーション病院が立地しています。
- その他の第一次医療施設などの診療所は、近鉄弥富駅付近から佐古木駅付近までの一般国道1号の南側に多く立地しています。



図：医療施設の立地状況

2-2-2 教育施設

- 市内には8つの小学校、2つの中学校のほか、1つの高校が立地しています。



図：教育施設の立地状況

2-2-3 商業施設

- ・市内のショッピングセンターとして、弥富駅の西側にイオンタウン弥富があります。また、一般国道1号沿線にスーパーマーケットや大型小売店舗、総合スーパーが多く立地しています。
- ・南部地域や東部地域では商業施設がなく、日常の買い物等をするには駅周辺部に行く必要があります。

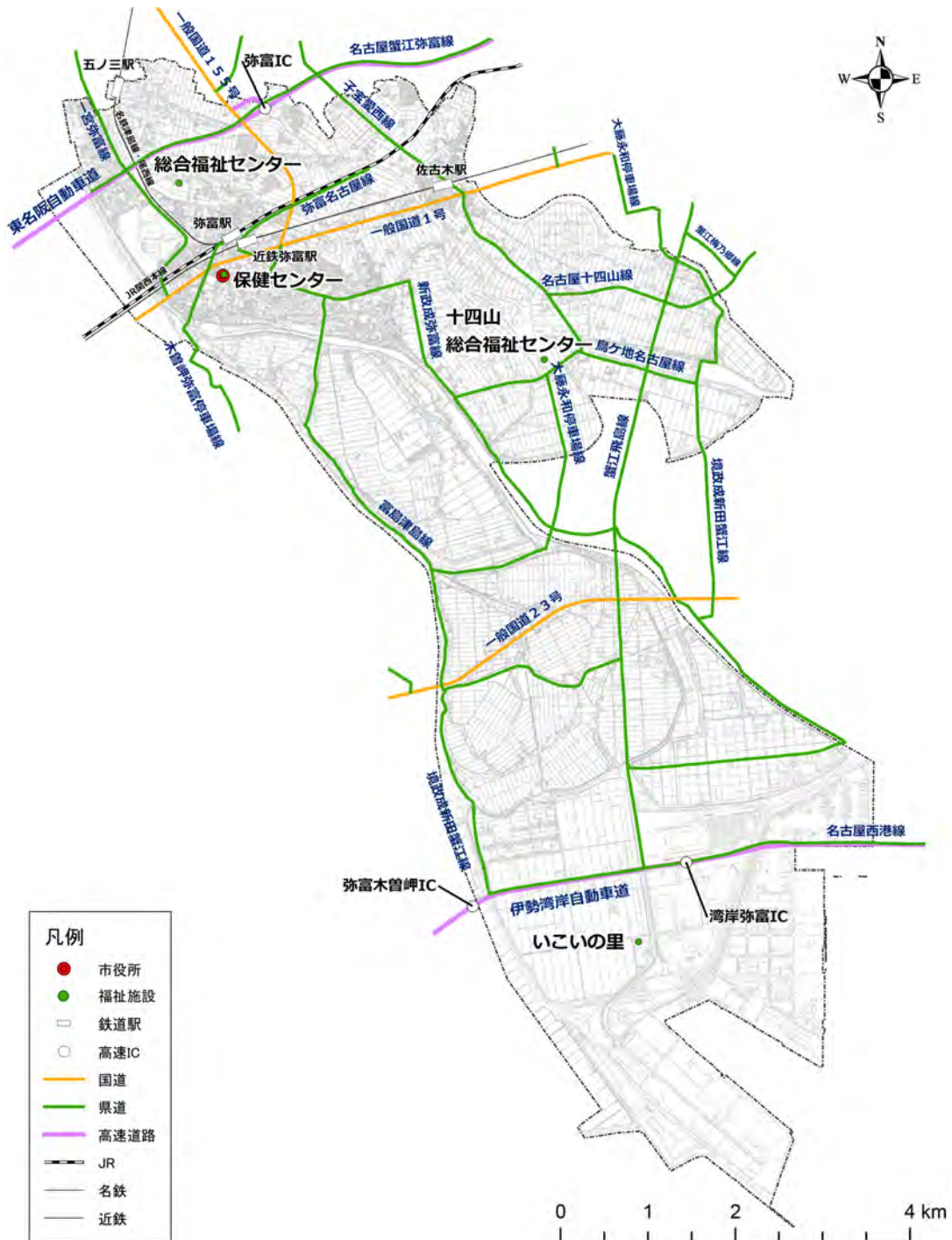


※資料：大型小売店総覧（2022年版）、愛知県HP

図：商業施設の立地状況

2-2-4 福祉施設

- 市内には温浴設備のある福祉施設として、北部地域に総合福祉センター、南部地域にいこいの里、東部地域に十四山総合福祉センターが立地しています。



図：福祉施設の立地状況

2-2-5 行政施設

- ・ 市内には市役所のほか、南部地域に鍋田支所、東部地域に十四山支所が立地しています。



図：行政施設の立地状況

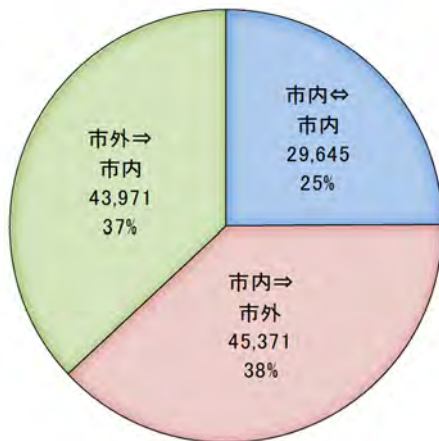
2-3 移動状況

2-3-1 市内移動

※資料：第6回中京都市圏パーソントリップ調査（令和4年）

(1)市内の移動量

- ・ 市内⇄市内の移動は29,645件で全トリップの25%を占めています。
- ・ ゾーン内移動ではゾーン4・5がそれぞれ5,000以上と多くなっています。
- ・ ゾーン間の移動で最も多いのがゾーン4⇄ゾーン5の15,444件、次いでゾーン3⇄ゾーン5の1,497件となっています。



図：本市関連移動量



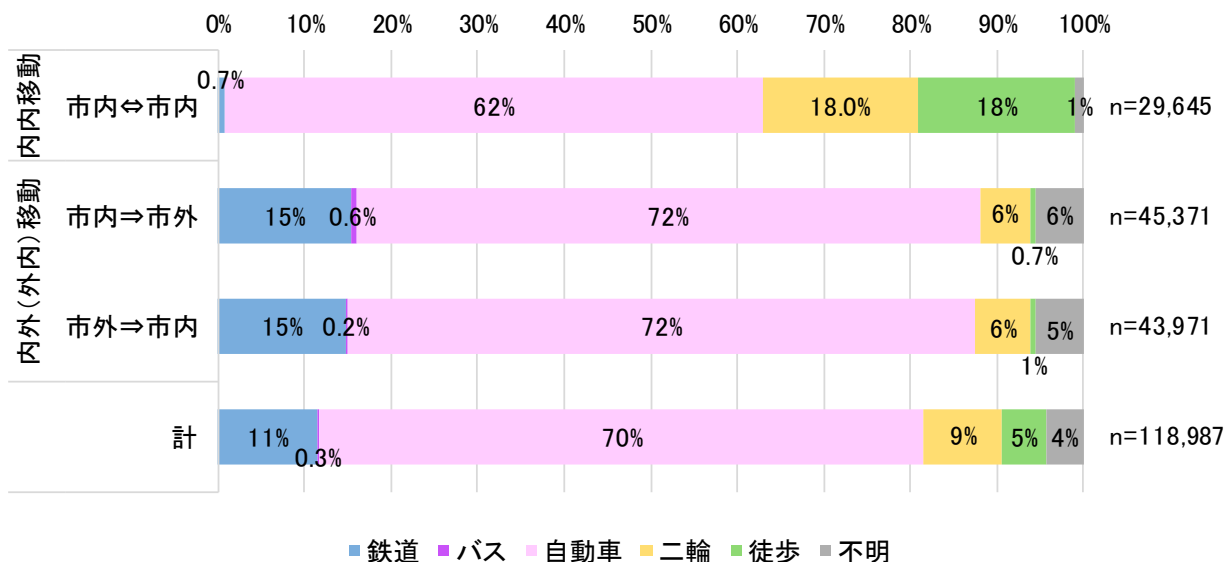
図：市内の移動状況

表：小ゾーンの該当町名

小ゾーン	該当町丁・字名
ゾーン3	下押菰1丁目、海屋1～3丁目、亀ヶ地1～2丁目、亀ヶ地新田、五斗山1～4丁目、坂中地1～5丁目、鮫ヶ地1～4丁目、三百島1丁目、四郎兵衛1～4丁目、子宝1～6丁目、子宝町、上押菰1～2丁目、神戸1～10丁目、西蜆1～2丁目、善太町、竹田1～6丁目、烏ヶ地1～3丁目、烏ヶ地町、東蜆1～2丁目、鍋平1～5丁目、馬ヶ地1～3丁目、六條町、桴場1～3丁目
ゾーン4	海老江1丁目、鎌島1～9丁目、五之三川平2～3丁目、五之三町、五明1～4丁目、五明町、小島町、森津1～16丁目、森津町、川原欠1～5丁目、川平1丁目、前ヶ須町、中山町、平島西1～4丁目、平島町、平島東1～3丁目、綱浦町、荷之上町、楽平1～2丁目、鎌倉町、佐古木1～7丁目、西中地町、前ヶ平1～3丁目、東中地1～2丁目、又八1～4丁目
ゾーン5	稲荷1～4丁目、稲荷崎1～9丁目、稲荷崎町、稲荷町、稲吉1～15丁目、稲元町、稲狐町、栄南町、加稲1～4丁目、加稲九郎次町、加稲山町、間崎2～3丁目、間崎町、境町、駒野町、狐地1～7丁目、狐地町、三稲1～8丁目、三稲町、三好1～5丁目、芝井1～16丁目、曙1～2丁目、松名1～7丁目、上野町、西末広1～5丁目、操出1～12丁目、大谷1～5丁目、大藤町、大縄場町、中原1丁目、中原町、東末広1～9丁目、東末広町、鍋田町、楠1～3丁目、富島1～4丁目、富島町、富浜1～5丁目

(2)交通手段割合

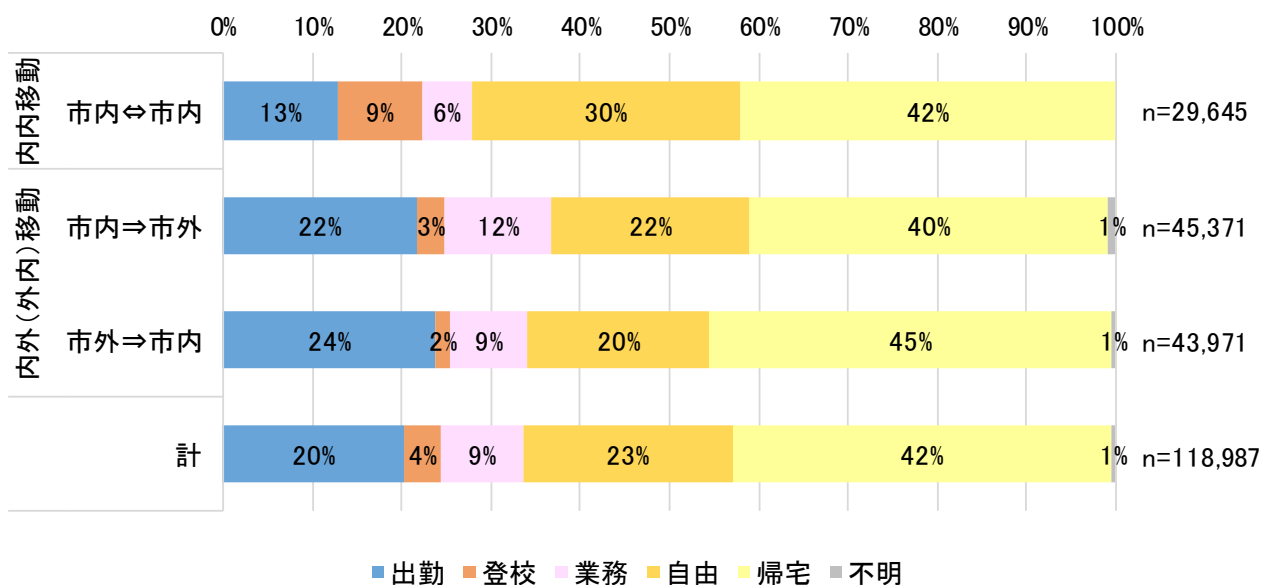
- すべての移動において移動手段は自動車が多くなっています。
- 市内⇔市外移動においては鉄道が15%と比較的多くなっています。
- 市内⇒市外においては、バスが0.6%となっています。



図：交通手段割合

(3)移動目的

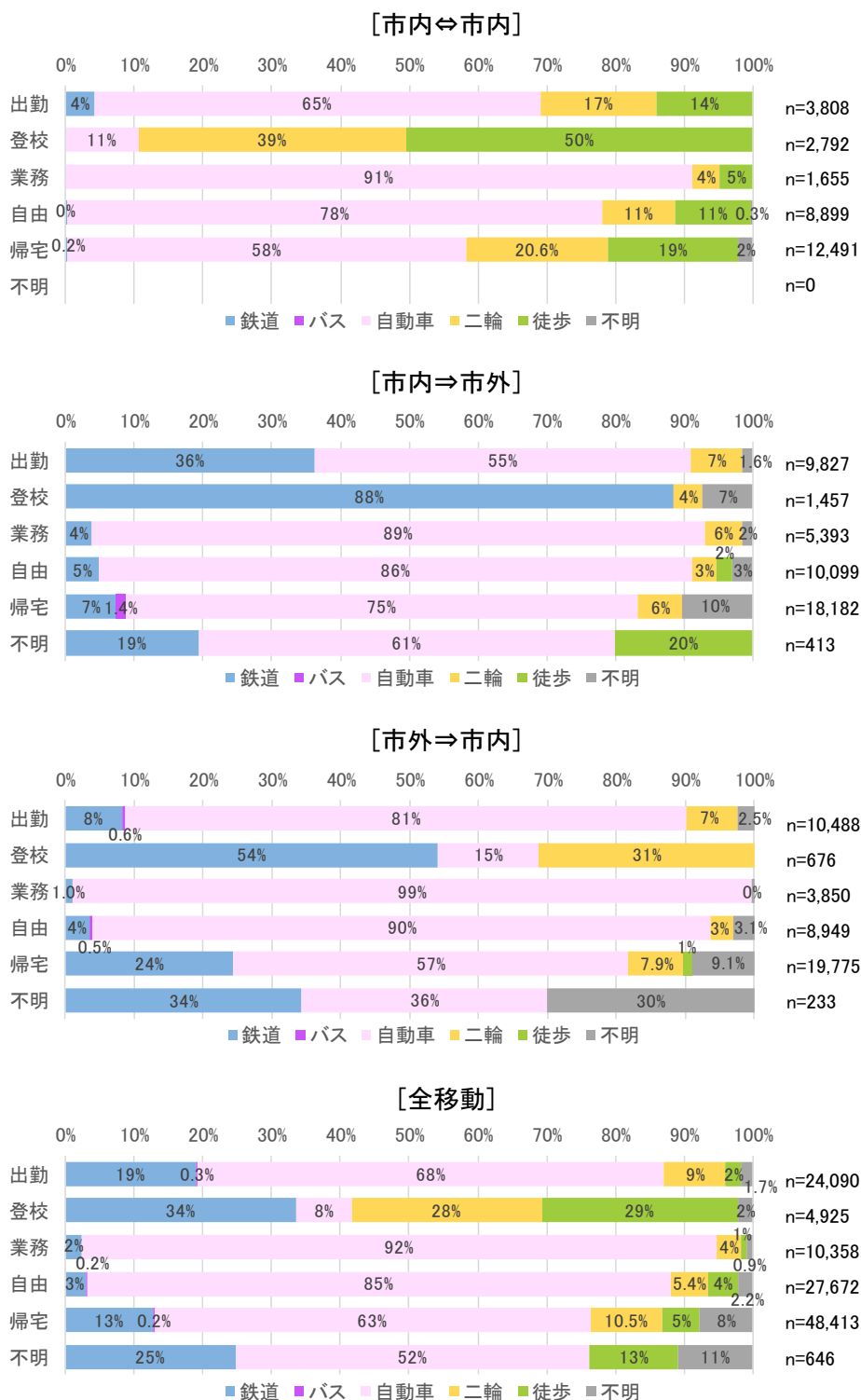
- 市内⇔市内、市内⇔市外とも移動目的は「帰宅」が多くなっています。
- 市内⇔市内では「自由」が30%と次いで多くっており、市内⇔市外では「出勤」が多くなっています。



図：移動目的

(4)目的別交通手段

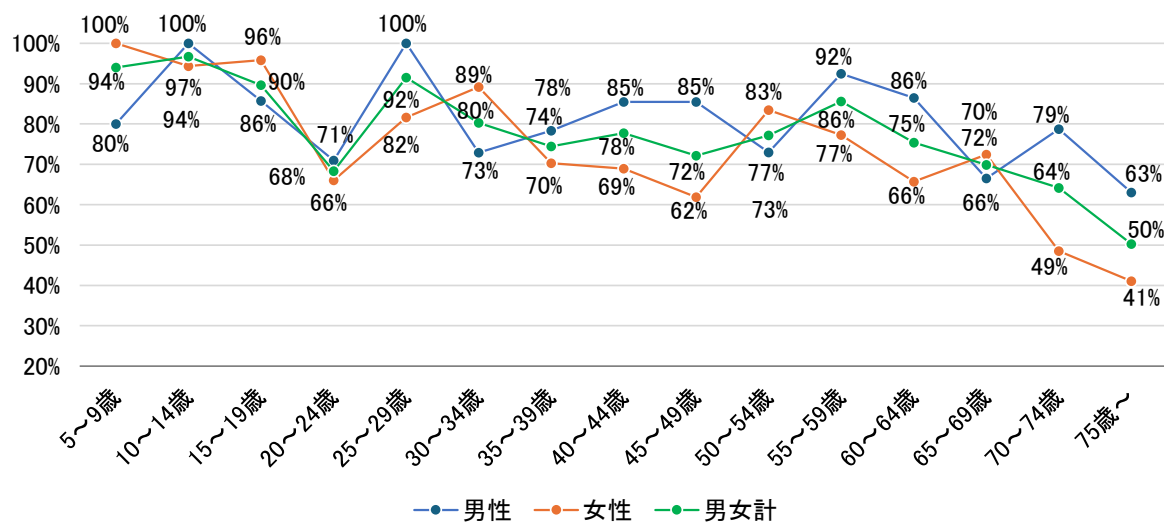
- ・ 「登校」を除き、全体的に自動車の割合が高くなっています。
- ・ バスは、市内⇒市外の「帰宅」で1.4%、市外⇒市内の「出勤」で0.6%となっています。



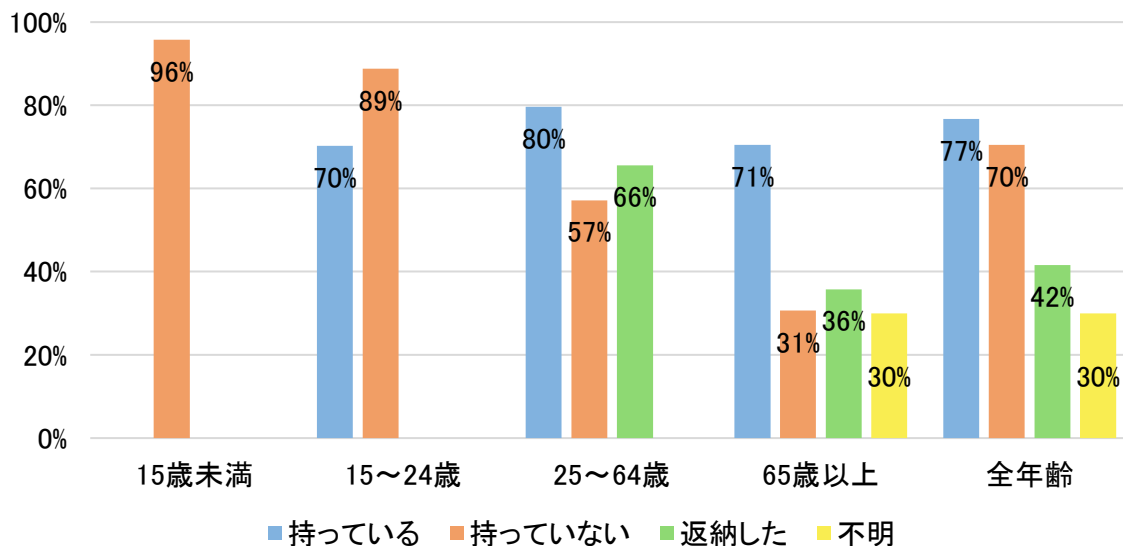
図：目的別移動手段

(5)年齢別外出割合

- 男女計の外出率をみると、若年層から高齢層にかけて外出率が低下していく傾向があり、75歳以上の外出率は50%程度です。
- また、一部年代を除いて、全体的に女性より男性の外出率が高い傾向にあります。
- 免許の有無別では免許を「持っていない」もしくは「返納した」の65歳以上での外出率が低くなっています。



図：年齢別外出率



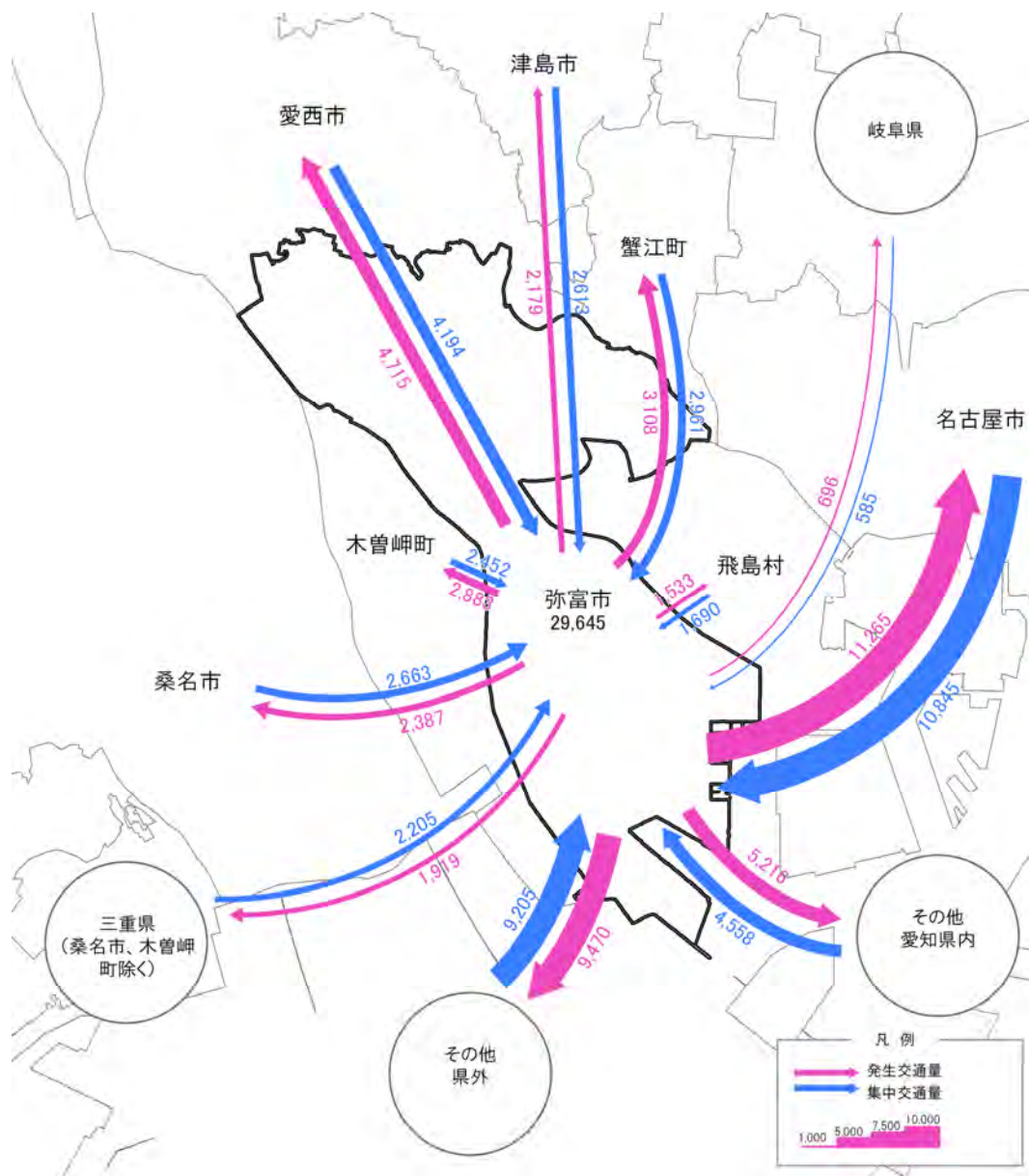
図：免許の有無別外出率

2-3-2 市外移動

※資料：第6回中京都市圏パーソントリップ調査（令和4年）

(1) 都市間の移動量

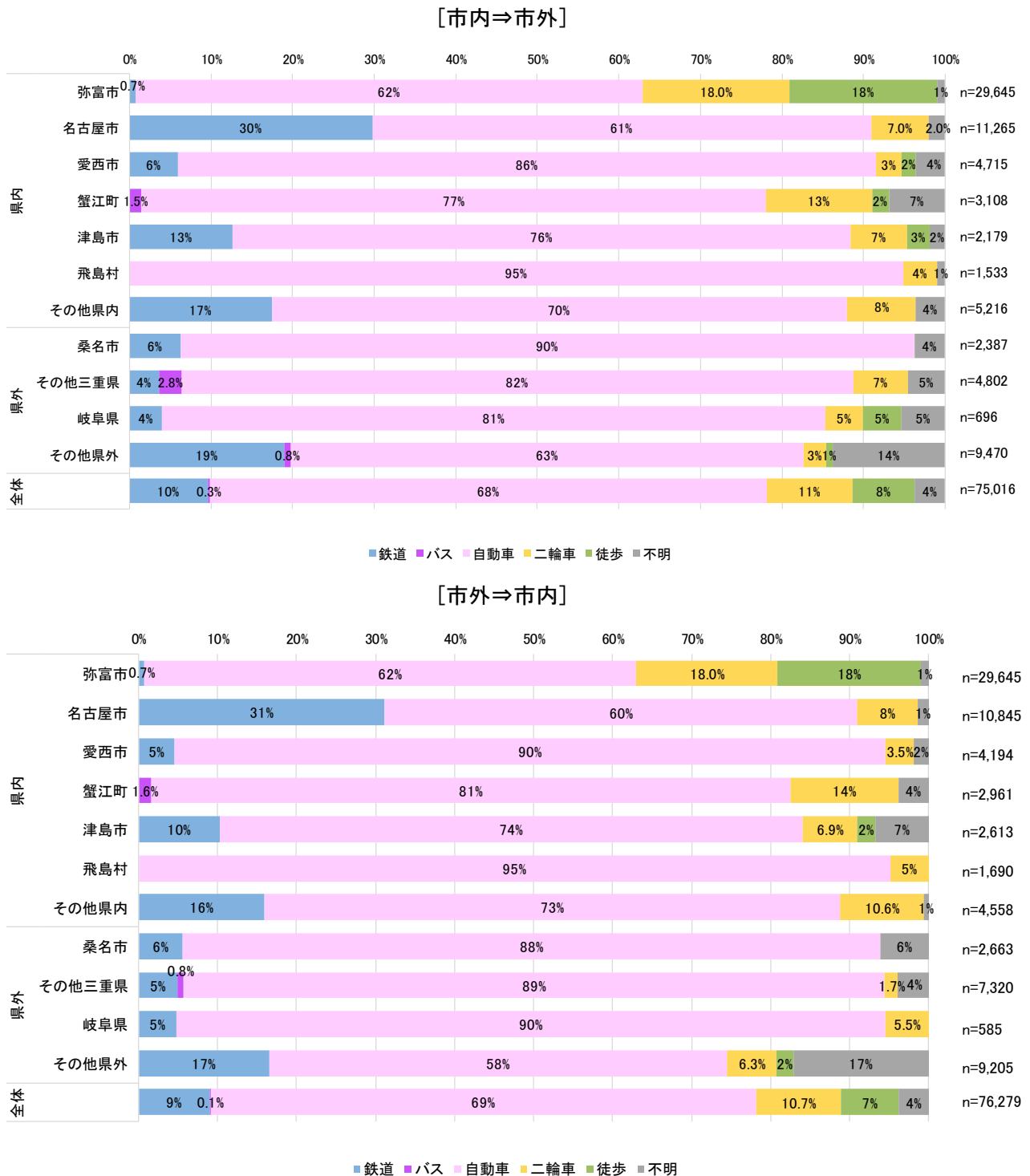
- 本市の他都市との移動量は、名古屋市との移動が最も多く、次いでその他県外との移動が多くなっています。



図：都市間の移動状況

(2)都市別の移動手段

- ・ 市内⇒市外への移動手段は、名古屋市や県外には「鉄道」が比較的多くはなっていますが、多くは「自動車」となっています。
- ・ 同様に市外⇒市内への移動手段も、名古屋市や県外からは「鉄道」が比較的多くはなっていますが、多くは「自動車」となっています。



図：都市別の移動手段

2-3-3 携帯位置情報からわかる移動状況

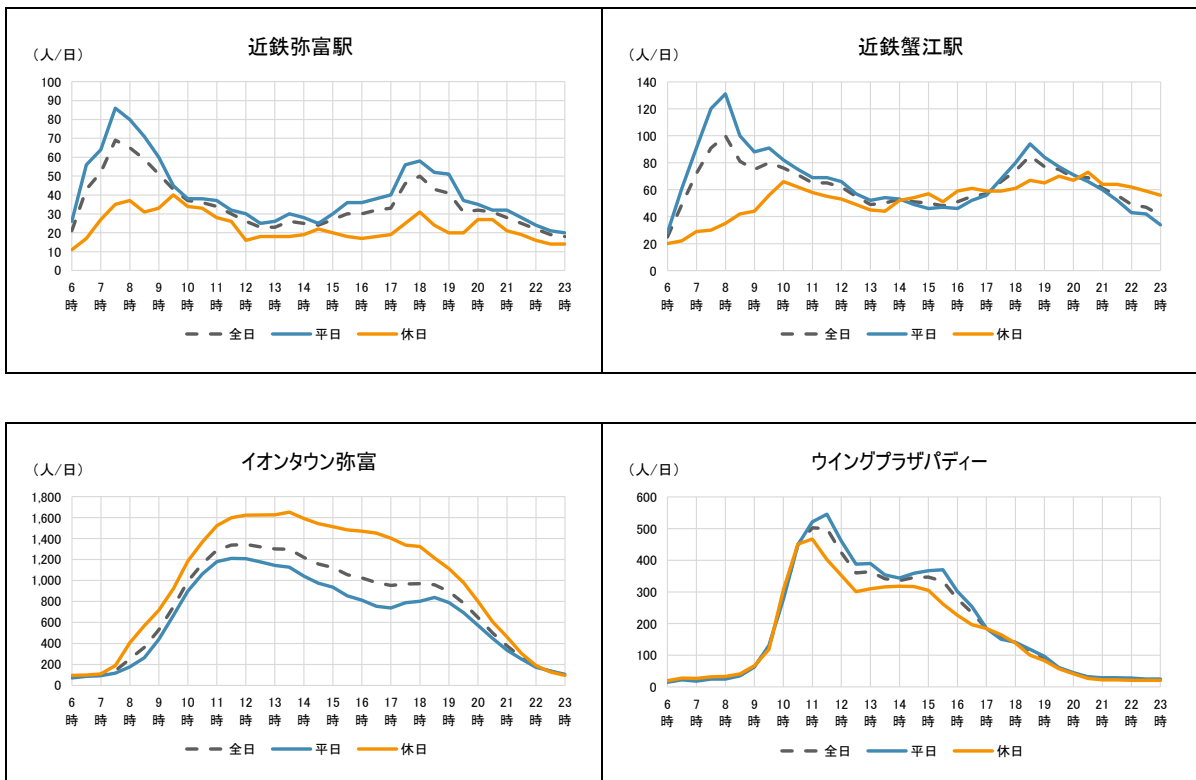
- 市民や来訪者の詳細な移動傾向を把握するため、携帯位置情報からわかる移動状況を整理しました。

表：月別・時間帯別分析図

集計期間	令和6年10月1日から令和7年9月30日の1年間
集計施設	「近鉄弥富」、「近鉄蟹江駅」、「イオンタウン弥富」、「ウイングプラザパディー」
分析内容	時間帯別来訪分析、来訪者居住地分析
分析条件	<ul style="list-style-type: none"> ・KDDI Location Analyzerを用いて集計(KDDIがau スマートフォンユーザー同意のもとで取得し、誰の情報であるかわからない形式に加工した位置情報データ及び属性情報を使用) ※来訪者は公共交通を利用した人に限らない ・滞在時間が15分以上の来訪者

(1) 時間帯別来訪分析

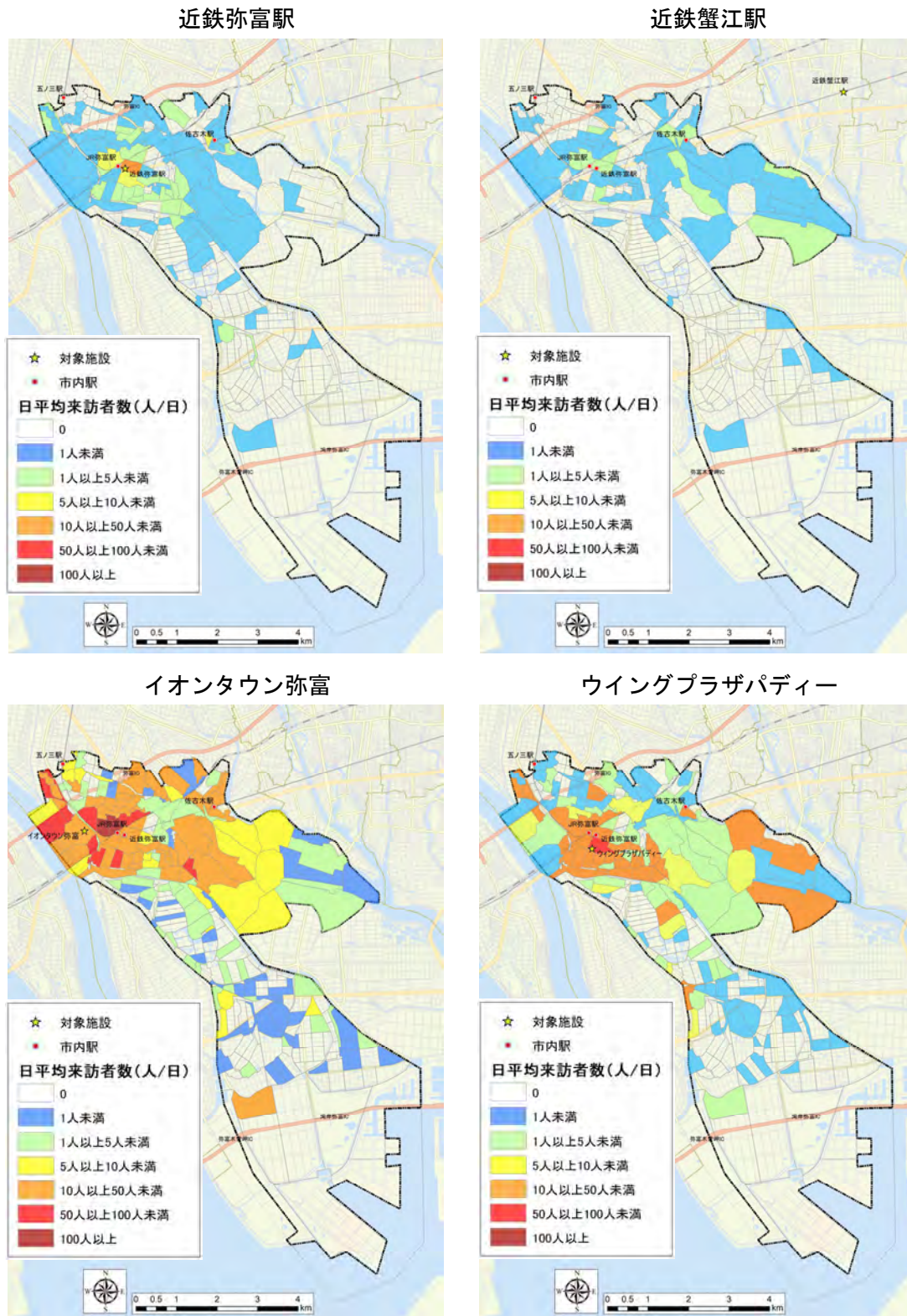
- 近鉄弥富駅と近鉄蟹江駅は7～8時台の通勤・通学時間帯と17～19時台の帰宅時間帯が来訪のピークとなっています。また、近鉄蟹江駅の方が近鉄弥富駅に比べて若干利用が多い傾向にあります。
- イオンタウン弥富やウイングプラザパディーは開店から徐々に来訪者が多くなり、10～11時台が来訪のピークとなっています。イオンタウン弥富は日中の来訪傾向に変化はありませんが、ウイングプラザパディーは時間帯によって来訪の多寡に違いがあります。



図：時間帯別来訪分析図

(2) 来訪者居住地分析

- ・ 近鉄弥富駅は駅周辺や北西部からの来訪があり、近鉄蟹江駅は北東部からの来訪があります。
- ・ イオンタウン弥富は比較的広い範囲からの来訪があり、ウイングプラザパディーはイオンタウン弥富に比べると近隣からの来訪が多い傾向にあります。



図：来訪者居住地分析図